

文部科学省認可通信教育



学習のポイント

2020 (令和2年度)

九州保健福祉大学大学院

連合社会福祉学研究科

博士 (後期) 課程

令和2年度レポート提出締切日

社会福祉学研究科 修士課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 9月30日(水)
- 第3回 令和2年11月30日(月)

保健科学研究科 博士(前期)課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 9月30日(水)
- 第3回 令和2年11月30日(月)

連合社会福祉学研究科 博士(後期)課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 9月30日(水)
- 第3回 令和2年11月30日(月)

保健科学研究科 博士(後期)課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 7月31日(金)
- 第3回 令和2年 9月30日(水)
- 第4回 令和2年10月30日(金)
- 第5回 令和2年11月30日(月)

レポート課題提出について

<おしらせ>

レポート提出締切日は、「完成されたレポート」の提出日です。

レポート内容に不安がある方は、科目担当教員より、少なくとも2週間前には、添削指導を受けてください。

<注意事項>

レポート提出は、締切日の17:00までに必ず提出してください。

レポート提出は、科目担当教員及び通信教育事務課の2箇所に提出してください。

※通信教育事務課レポート専用メールアドレス：kuhw-c-report@office.jei.ac.jp

※科目担当教員メールアドレス：(別紙参照)

連合社会福祉学研究所 博士（後期）課程 2014年度 カリキュラム

（連合社会福祉学研究所 博士課程 2014年度入学生～2020年度入学生用）

	授業科目名	分野名	担当教員名	開講年次	単位	授業形態	必修選択	目次	
授業科目の概要	専門選択科目	社会福祉学特殊講義Ⅰ	社会福祉原論	星野 政明	1・2・3	2	T	○	1
		社会福祉学特殊講義Ⅱ	社会福祉思想論	栗栖 照雄	1・2・3	2	T	○	2・3
		社会福祉学特殊講義Ⅲ	社会福祉政策論	高橋 睦子	1・2・3	2	T	○	4
		社会福祉学特殊講義Ⅳ	コミュニティ・ソーシャルワーカー論	平川 忠敏	1・2・3	2	T	○	5
		社会福祉学特殊講義Ⅴ	権利擁護論	横山 奈緒枝	1・2・3	2	T	○	6
		社会福祉学特殊講義Ⅵ	東洋介護福祉論	渡邊 一平	1・2・3	2	T	○	7・8
		社会福祉学特殊講義Ⅶ	精神保健福祉論	鶴 紀子	1・2・3	2	T	○	9
		社会福祉学特殊講義Ⅷ	児童・家族福祉論	杉原 俊二	1・2・3	2	T	○	10
		社会福祉学特殊講義Ⅸ	国際福祉論	高橋 睦子	1・2・3	2	T	○	11
		社会福祉学特殊講義Ⅹ	高齢者健康福祉論	小川 芳徳	1・2・3	2	T	○	12
		社会福祉学特殊講義Ⅺ	介護福祉論	清水 径子	1・2・3	2	T	○	13
		社会福祉学特殊講義Ⅻ	行動療法論	前田 直樹	1・2・3	2	T	○	14
		社会福祉学研究法特殊講義Ⅰ	質的研究	加藤 謙介	1・2・3	2	T	○	15
		社会福祉学研究法特殊講義Ⅱ	量的研究	正野 知基	1・2・3	2	T	○	16
		総合科目	社会福祉学特殊研究Ⅰ		小川 芳徳	1	2	S	◎
	社会福祉学特殊研究Ⅰ			川崎 順子	1	2	S	◎	18
	社会福祉学特殊研究Ⅰ			兒玉 修	1	2	S	◎	19
	社会福祉学特殊研究Ⅰ			正野 知基	1	2	S	◎	20
	社会福祉学特殊研究Ⅰ			高橋 睦子	1	2	S	◎	21
	社会福祉学特殊研究Ⅰ			前田 直樹	1	2	S	◎	22
	社会福祉学特殊研究Ⅰ			渡邊 一平	1	2	S	◎	23

(連合社会福祉学研究科 博士(後期)課程 2014年度入学生～2020年度入学生用)

授業科目の概要	総合科目	社会福祉学特殊研究Ⅱ	小川 芳徳	2	2	S	◎	24
		社会福祉学特殊研究Ⅱ	川崎 順子	2	2	S	◎	25
		社会福祉学特殊研究Ⅱ	兒玉 修	2	2	S	◎	26
		社会福祉学特殊研究Ⅱ	正野 知基	2	2	S	◎	27
		社会福祉学特殊研究Ⅱ	高橋 睦子	2	2	S	◎	28
		社会福祉学特殊研究Ⅱ	前田 直樹	2	2	S	◎	29
		社会福祉学特殊研究Ⅱ	渡邊 一平	2	2	S	◎	30
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	小川 芳徳	3	2	S	◎	31
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	川崎 順子	3	2	S	◎	32
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	兒玉 修	3	2	S	◎	33
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	正野 知基	3	2	S	◎	34
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	高橋 睦子	3	2	S	◎	35
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	前田 直樹	3	2	S	◎	36
		社会福祉学特殊研究Ⅲ	渡邊 一平	3	2	S	◎	37

【修了要件】

必修3科目6単位、専門選択3科目6単位以上、合計12単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【授業形態】

T＝印刷授業科目 S＝面接授業（面接授業における事前事後の学習を含む）
◎＝必修授業科目 ○＝選択授業科目

※ 社会福祉学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、1年次に社会福祉学特殊研究Ⅰ、2年次に社会福祉学特殊研究Ⅱ、3年次に社会福祉学特殊研究Ⅲの履修をしてください。同じ年度に社会福祉学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを重複して履修することはできません。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅰ（社会福祉原論）	星野 政明	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学理論の構成要因である幾つかの主要理論(主体性・共通性・権利性)の哲学的、思想的背景を、ノーマライゼーション原理との関連のなかで講述し、また戦後の社会福祉学理論や現在の社会福祉思想の検討を行い、ノーマライゼーション原理が社会福祉学の基礎原理であることを解明する。

到達目標 (SBOs)

学位論文を創造的アカデミックに、進化した研究内容を目指す。その内容を社会に還元し福祉世界に寄与することを目標とする。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

R.J.Cootes の “The Making of the Welfare State” の原著を精読して、大意を述べよ。(英文)

第2回レポート課題

『社会福祉の三つのモデル』の訳書のタイトル第1章～第12章を通読してピンカーの協調するエッセンスは、4点あると考えられる。それを要約的に述べよ。(和文)

第3回レポート課題

21世紀の社会福祉について、『社会福祉の源流を行く』全体を精読して各自の未来展望について述べよ。(社会福祉は伝統的に共同体社会の道を歩んできた。それは西暦紀元前4000年からの道のりであった)(和文)

テキスト

1. 飯田精一著 『社会福祉の源流を行く』 近代文芸社 2006
2. ロバート・ピンカー著 『社会福祉三つのモデルー福祉原理の探究』 黎明書房 2003
3. メアリー・E・リッチモンド著 杉本一義監修 『社会診断 SOCIAL DIAGNOSIS』

参考書・参考資料等

1. 中園康夫著 『ノーマライゼーション原理の研究』 海声社 1996
2. 仲村優一他監修 『エンサイクロペディア社会福祉学』 中央法規 2007
3. 上田千秋著 『オウエンとニュー・ハーモニー』 ミネルヴァ書房 1984
4. 日野原重明訳 『オスラー博士講演集 平静の心』 医学書院 1984
5. 多田英範編著 『世界はなぜ社会保障制度を創ったのか 主要9カ国の比較研究』 ミネルヴァ書房 2014
6. 星野政明他監修 『その人らしさをいかに医療介護福祉』 あいり出版
7. 中村剛著 『井深八重の生涯に学ぶ“ほんとうの幸福”とは何か』 あいり出版
8. その他、必要に応じて紹介する

学生に対する評価

上記レポート3回の課題より総合して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅱ（社会福祉思想論）	栗栖 照雄	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

現在、日本において社会福祉思想を研究するフレームとして次のようなカテゴリーが提案されている(中野伸彦「社会福祉哲学・思想研究の動向」『社会福祉の課題と研究動向』中央法規より)。

- (1)「実践の根拠」(実践的行為のエートスの考察)
- (2)「価値や倫理の根拠」(対人援助現場の関係性の考察)
- (3)「福祉理念型の根拠」(社会福祉の学的パラダイムの考察)
- (4)「哲学・思想史との連関」(哲学・思想と福祉的事象との関連の考察)

本講義においては、院生が(1)から(4)までのカテゴリー全体を視野に入れ、各カテゴリーにおける課題を自己自身の課題として内面化しつつ考察することによって、院生自身が全体に通底する独自の思想を創出していくことを目指す。研究方法としては、テキストのみならず広範囲にわたる文献・資料の検索・講読と、深く徹底した自己省察である。

到達目標 (SBOs)

- (1)「実践の根拠」: 当事者の言説に直接触れることを通して、福祉活動の代表的なエートスを内面化して会得したうえで、院生自らの言葉で当事者の実践活動の根拠を表明できる。
- (2)「価値や倫理の根拠」: 対人援助の現場における関係性に関して、技術的に基礎づける理論ではなく、関係性そのものを質的に規定する原理(思想)を探究し、院生自らの言葉でその原理を表明できる。
- (3)「福祉理念型の根拠」: 社会福祉研究全体を体系化する試みを通覧して、学的パラダイムを支える基礎的な概念と範疇を抽出し、院生自らの言葉でその概念と範疇を表明できる。
- (4)「哲学・思想史との連関」: 特に現代の社会福祉理論形成に決定的な影響を与えた古典的な宗教・哲学・倫理・自然思想に関して、個別の思想内容と共に、それらの歴史的連関を、院生自らの言葉で説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

社会福祉活動のエートスを実践当事者の言説から読み取り、エートス形成に影響を与えた古典思想に遡源しつつ、院生自身の思想として内面化し言説化する。テキスト『福祉の思想』

第2回レポート課題

対人援助現場における諸関係の特徴と、その関係性を規定する原理(思想)を、古典思想に遡源しつつ、究明する。テキスト『ケースワークの原則』

第3回レポート課題

岡村重夫による試みをはじめとする、社会福祉の学的体系化の試みを考察する。体系化のための基礎概念と基礎範疇を抽出して、その妥当性を検証する。テキスト『社会福祉原論』

テキスト

- ①『福祉の思想』糸賀一雄著、日本放送出版協会
- ②『ケースワークの原則（新訳版）』F.P.バイステック（尾崎新他訳）誠信書房
- ③『社会福祉原論』岡村重夫著、全国社会福祉協議会

参考書・参考資料等

- ①『ハイデッガー;ツォリコーン・ゼミナール』メダルト・ボス編、木村敏他訳、みすず書房
- ②『社会福祉の歴史』ロバート・ブレムナー著、栗栖照雄他訳、相川書房
- ③『人生観の哲学』栗栖照雄他著、西日本法規出版(現・ふくろう出版)
- ④『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ著、田村真訳、ゆみる書房
- ⑤『社会福祉の動向と課題』栗栖照雄他著、中央法規出版
- ⑥『ソーシャルワークの価値と倫理』フレデリック・リーマー著、秋山智久監訳、中央法規出版
- ⑦『社会福祉の思想と人間観』嶋田啓一郎監修、ミネルヴァ書房
- ⑧『人間福祉の思想と実践』住谷馨他編著、ミネルヴァ書房
- ⑨『ソーシャル・ワーク実践とエコシステム』太田義弘著、誠信書房
- ⑩『ジェネラル・ソーシャルワーク』太田義弘編著、光生館
- ⑪『日本の社会福祉思想』吉田久一著、勁草書房
- ⑫『福祉の哲学』阿部志郎著、誠信書房
- ⑬『ソーシャルワーク実践への道』小関康之他編著、角川書店
- ⑭『介護福祉教育の方法と実践』栗栖照雄他編著、角川書店

学生に対する評価

3回のレポート、科目修了試験の成績に基づいて、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅲ（社会福祉政策論）	高橋 睦子	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

概要)

この講義では、社会福祉政策における政策原理を理解し、効率・最適性に代表される経済原理と、平等・公正・公平・適切性といった福祉原理とがどのように競合／調和するかを検討することで、行政・政府（公共部門）だけでなく市民や地域社会・民間団体をも視野に含め、社会福祉政策の主体の問題について政策形成論の見地から考察する。

一般目標)

社会福祉学における「政策」の形成や変遷が実践面に及ぼす影響について理解し、社会のマイクロ・メゾ・マクロの変化を新たな社会福祉の課題として認識し、政策面での対応の選択肢を学修する。

到達目標 (SBOs)

到達目標)

政策論の視座・アプローチから社会福祉学の特性について理解を深め、受講生各自の研究活動にとって有用な理論枠組みを修得する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「福祉国家」を熟読し、(1) 社会的排除への対応における福祉国家の役割に関する諸説を整理しつつ、(2) 「必要」の概念に関する現代的な議論の特徴について論考してください。(全体として約5000字前後、参考文献その他入手可能な文献資料も積極的に利用すること) (6月末)

第2回レポート課題

テキスト「ケアの社会学-当事者主権の福祉社会」を熟読し、「当事者主権」の意義と課題について考察してください。(全体として約5000字前後、参考文献その他入手可能な文献資料も積極的に利用すること) (9月末)

第3回レポート課題

テキスト「日本の社会政策」を熟読し、経済的、社会的な側面からみた日本の社会政策の動向について論考してください。(全体として約5000字前後、参考文献その他入手可能な文献資料も積極的に利用すること) (11月末)

テキスト

1. 坪 洋一「福祉国家」法律文化社 2012
2. 上野千鶴子「ケアの社会学」太田出版 2011
3. 久本 憲夫「日本の社会政策<改訂版>」ナカニシヤ出版 2015

参考書・参考資料等

1. 大沢真理・佐藤岩夫「ガバナンスを問い直す I:越境する理論のゆくえ」東京大学出版会 2016
2. 大沢真理・佐藤岩夫「ガバナンスを問い直す II:市場・社会の変容と改革政治」東京大学出版会 2016
3. 武川正吾「公共性の福祉社会学 - 公正な社会とは」東京大学出版会 2013

学生に対する評価

レポートに3回合格することを前提とし、科目修了試験の成績により評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅳ（コミュニティ・ソーシャルワーク論）	平川 忠敏	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

個人の能力の改善や向上といった視点だけでなく、社会を個人に適応させ、個人と社会の両者の関係性の改善を図る、という視点に立つコミュニティアプローチを展開し「地域で共に暮らす」ための理論を学び、実践を展開する。

<英文課題>

自分の専門とする中から、最新の英文論文を選び、英文論文原本と抄訳を提出する。

到達目標（SBOs）

個人も彼を取り巻く環境も同時に診断し、個人にも環境にも働きかける方法論を身に着けそれを実践できるようになる。たとえば、コンサルテーションの技法を用いて、個人を取り巻くキーパーソンへアプローチし、環境の変化をもたらし、ハンディキャップがあっても不自由しない生活を送れるようにすることができるようになる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

セルフヘルプグループ、エンパワーメント、レジリエンスの概念を説明し、社会的弱者は決して援助を必要とする存在ではなくてもともと多くの力を持っている主体的な存在であることを例を挙げて説明しなさい。

第2回レポート課題

共生、ノーマライゼーション、コミュニティオーガニゼーションの概念を説明し、これらの概念に基づいた具体的な事例を本や雑誌から見つけ出して報告しなさい。

第3回レポート課題

コミュニティエンパワーメントの事例に関する英語の文献を読んでレポートしなさい。

テキスト

1. 植村勝彦編著「コミュニティ心理学入門」ナカニシヤ出版
2. 植村勝彦他編著「よく分かるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

1. 山本和郎 監訳コミュニティ心理学—理論と実践—1997 ミネルヴァ書房 (Orford, J. Community Psychology: Theory and Practice John Wiley & Sons. 1992)
2. 山本和郎 著 コミュニティ心理学—地域臨床の理論と実践—東京大学出版会 1986
3. 山本和郎 他編著 臨床・コミュニティ心理学 ——臨床心理学的地域援助の基礎知識——ミネルヴァ書房 2000
4. 箕口雅博 臨床心理地域援助特論 放送大学教育振興会 2007
5. 笹尾敏明 訳 コミュニティ心理学—個人とコミュニティを結ぶ実践人間科学—金子書房 2007 (Dalton, J.H., Elias, M.J. & Wandersman, A. Community Psychology: Linking Individuals and Communities. Stanford, CT: Wadsworth)

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅴ（権利擁護論）	横山 奈緒枝	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（GIO）

現代の日本社会において、ソーシャルワーカー（以下、SW）には「権利擁護」の観点の欠くことのできないものである点を社会福祉課題の複雑さや多層性を捉えながら学び取る。また、権利擁護の理念や法的枠組みを把握するとともに、哲学的な根拠の検討を通して課題への理解を深める。支援の具体的な場面から権利擁護の実践者が抱える諸課題をジレンマとして再考し、これらを制度や自立支援の課題等とつなげて検討し、ソーシャルワーク実践における権利擁護の手だてを考察する。

到達目標（SBOs）

履修生各自が自身の関心領域（高齢・障害・児童等）における虐待をめぐる問題、実態を説明できる。また、その実状に対する自身なりの意見や考えの論述表現を工夫でき、適切に理念や法枠組みや哲学的根拠などを用いて解説できる。その領域の実践が含む、ジレンマという二重構造下での対応の困難さや、「権利擁護と権利侵害」の相反する側面、そして、密着度の高い関係性（相互依存、複数の課題が込み入った状態等）等を理解し、それらの複雑で解決の難しい状態への対応策や考察を論理的に展開していけるようになることを到達目標とする。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

社会福祉学領域で「権利擁護」がどのように述べられたり、理念として標榜されているか、ソーシャルワークの専門性に関わる範囲を中心に抽出し、説明してください。その上で、あなたの所属する実践領域（または関心のある領域・理解している領域）でのそれら理念に関わる課題点と、権利擁護実践において必要になると考える哲学的根拠（または思想等）を論述してください。（6月末）

第2回レポート課題

高齢者虐待・児童虐待・障害者虐待に関する防止法の中から1つを選定し、法概要を説明してください。その上で、①実践における虐待防止をめぐる課題点（理念、哲学的観点、法的な切り口等）、②あなたの虐待問題に対する考え、対応策等を説明してください。（9月末）

第3回レポート課題

権利が守られていない社会福祉領域の事例（履修生自身の実践事例、引用も可）を元に、①その事例にSWが関わる場合を想定し、抱えるジレンマ現象（内容、対応の課題）を解説してください。その上で、②権利擁護のために重視すべきSWの視点や考え方を説明してください。今回のレポートでは海外における考え方について原著最低1点を翻訳、引用し、活かしながら述べてください。（11月末）

テキスト

1. 広井良典（2017）「福祉の哲学とは何か」ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

1. 菅富美枝（2010）「イギリス成年後見制度にみる自律支援の法理」ミネルヴァ書房
2. 秋元美世（2010）「社会福祉の利用者と人権」有斐閣
3. 加藤博史（2013）「社会福祉の定義と価値の展開」龍谷叢書XXXⅡ ミネルヴァ書房
4. 岩田正美（2010）「貧困と社会福祉」日本図書センター
5. イバン・イリイチ（2006）「生きる希望」藤原書店
6. E・ゴッフマン（1996）「アサイラム 施設被収容者の日常世界」誠信書房
7. 稲沢公一（2015）「援助者が臨床に踏みとどまるとき」誠信書房
8. 尾崎新（1999）「ゆらぐことのできる力」誠信書房 *この他、選定領域に応じて活用いただきたい。

学生に対する評価

レポートに3回合格することを前提とし、科目修了試験の成績により評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義VI（東洋介護福祉論）	渡邊 一平	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

日本語の「介護」と「介護福祉」は、それぞれ異なる意味で用いられる場合がある。介護の現場では、少なからず医療と生活支援を併せ持つ内容が求められ、また介護福祉領域では、身体的、心理的、社会的な関わりが必要とされる。それぞれに異なる意味を有してはいるが、いずれも人間理解が必要とされる点に共通因子がある。この介護・介護福祉の本質を捉えるため、本講義では、こころと身体の関係、あるいは環境（場）と身体の間、科学的研究の実際と限界に関する内容を、科学的視点（現代医学的視点）を比較対象として、全体論を基軸とする東洋医学的視点から捉える。そのことにより、医療、福祉、介護はもとより、カウンセリングやメンテナンスなど、非常に多義的な意味を内包している care の意義を理解する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 心身一如などに表される東洋医学のこころと身体の捉え方、関係性について理解できる。
- 2) 方法論からみた科学的思考法の意義と限界について理解できる。
- 3) 自己とは何か？他者とは何かについて理解でき、介護福祉における「自立」の意義について考察できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

「東洋医学からみたこころと身体の関係について」

テキスト『東洋医学を知っていますか. P14-82』を参照し、気・陰陽論・五行論などの概念を理解した上で、「心身一如」と表される東洋医学の整体観についてまとめる。また、東洋医学思想の「陰陽論」から「こころと身体の関係」、臓腑論から「こころの所在」について理解し、こころと身体の関係について各自の考えをまとめる。

第2回レポート課題

「科学的研究法の意義と限界」

二重盲検試験 (double blind test) や根拠に基づいた医療 (EBM: Evidence Based Medicine) などに象徴される科学的研究は、どのような条件下で行われ、それは実際の生命現象と何が異なるのか、テキスト『生物と無生物のあいだ』、あるいは他の参考文献を読み、科学的研究法の意義と限界について各自の考えをまとめる。

第3回レポート課題

「自立とは何か？」

テキスト『悲鳴をあげる身体』を読み、そこへ第1回レポートで学習した東洋医学の陰陽論、心身論を絡めることで、自己の存在意義と他者（環境）との関係性の観点から、介護福祉にとってキーワードとなる「自立とは何か？」について各自の意見をまとめる（なお、参考文献の4.『老人ケアの社会学』が参考となる）。

テキスト

- 1) 東洋医学を知っていますか：三浦於菟. 新潮社. 978-4-10-600495-7 . 1,100 円
- 2) 生物と無生物のあいだ：福岡伸一. 講談社現代新書. 978-4-06-149891-4. 880 円
- 3) 悲鳴をあげる身体：鷺田清一. PHP 新書. 978-4-569-60309-4. 657 円

参考書・参考資料等

- 1) スティーブン・ロック、ダグラス・コリガン著、田中 彰ら訳、池見西次郎監修：内なる治癒力. ころと免疫をめぐる新しい医学. 創元社
- 2) アンドルー・ワイル著、上野圭一訳：癒す心、治る力. 角川書店
- 3) 石田秀実著：気流れる身体. 平河出版.
- 4) 木下康仁著：老人ケアの社会学. 医学書院
- 5) 栗栖照雄ら編著：介護福祉教育の方法と実践. 新しいケアワーカー像を求めて. 角川書店
- 6) 新村 拓著：死と病と看護の社会史. 法政大学出版局
- 7) 米山公啓著：「健康」という病. 集英社新書
- 8) 丸田俊彦著：痛みの心理学 疾患中心から患者中心へ. 中央公書
- 9) 石田秀美著：こころとからだ 中国古代における身体 of 思想. 中国書店
- 10) 東洋療法学校協会編：東洋医学概論. 医道の日本社

学生に対する評価

3回のレポートおよび科目試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅶ（精神保健福祉論）	鶴 紀子	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

100名に一人という高率に認められる統合失調症は現代病としてのうつ病、高齢化社会での認知症共々、重要な福祉分野での対象となる疾病である。精神障害を有する人は多くの生きづらさを感じており、社会的参加を制約されている。統合失調症の認知機能障害がどのようなものか理解すること、その原因、対処方法の概要を知る。記憶のメカニズムについて知る。認知症の種類、治療法、予防について理解する。

到達目標 (SBOs)

1. 統合失調症の認知障害を記述し、その重要性を理解することが出来る。
2. 統合失調症の学習と記憶、ワーキングメモリー、実行機能、注意障害について知る。
3. 認知症の概要、種類、治療、予防について理解する。
4. 記憶のメカニズムを理解する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

1. 統合失調症の認知障害の概要を記述する、
2. その原因が精神病による陽性症状、薬物療法、知的機能の低下によるものでないことを記述する。陰性症状と関連するがそれによるものでないことを記述する。
3. 記憶のメカニズムについて記述する。

第2回レポート課題

1. 統合失調症の学習と記憶、統合失調症のワーキングメモリー、実行機能、注意障害について述べる。
2. 加齢に伴う認知機能の変化と認知症による認知機能障害について記述する。

第3回レポート課題

1. 新規抗精神病薬の概要について述べる。
2. 認知症について、分類し、治療法、予防法について述べる。
3. 与えられた英語論文を読み、サマリーを書く

テキスト

「統合失調症の認知機能ハンドブック」丹羽真一、福田正人監訳 南江堂 ISBN978-4-524-23833-0

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポートを評価する

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅷ（児童・家族福祉論）	杉原 俊二	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

児童福祉のみならず、ソーシャルワーク実践においてそのほとんどで「家族」という単位を考慮に入れる。しかし、家族についての様々な視点について整理されていない場合が多い。そのために、視点を整理し、その中で社会福祉としての「家族」を把握することで、ソーシャルワーク実践への応用を検討する。特に、児童の問題を家族ソーシャルワーク（家族療法を含む）の視点から検討をすることにより、「家族」と援助のための機能を把握する。

到達目標 (SBOs)

1. 問題をフィールドの中から見つけ出し、解決をするための手段を考え、それを研究へと結びつけることができる。
2. 「児童福祉」や「家族福祉」の領域でのソーシャルワークを実践するための質的研究ができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

テキストを参考にしながら、①「自分の子ども時代（生まれてから高校を卒業するまでの自分史）」、②「自分の子育て」、③「自分と親との関係」もしくは「自分と子どもとの関係」。①～③のいずれかについて、振り返りながら、記述をする。字数は2000字以上とする。

第2回レポート課題

①児童の問題あるいは家族の問題をとりあげ、整理し検討する。自験例でもよいし、文献などから調査した上での検討でもよい。②第1回レポート自分史続編（大学入学あるいは社会人1年目から現在まで）。①～②のいずれかについて、記述をする。字数は2000字以上とする。

第3回レポート課題

①第2回レポートで挙げた問題を解決するための具体的な方策を考え、文章や図にまとめる。②自分史を書いてみて、どのようなことに気付いたのかをまとめる。①～②のいずれかについて、記述をする。字数は2000字以上とする。

テキスト

1. 秋田喜代美・能智正博監修（2007）『事例から学ぶはじめての質的研究法 臨床・社会編』東京図書 2,800円 ISBN-13: 978-4489020100
2. 秋田喜代美・能智正博監修（2007）『事例から学ぶはじめての質的研究法 生涯発達編』東京図書 2,800円 ISBN-13: 978-4489020155
3. 高松里（2015）『ライフストーリー・レビュー入門』創元社 1,800円 ISBN-13: 978-4-422-11599-3

参考書・参考資料等

1. 秋田喜代美・能智正博監修（2007）『事例から学ぶはじめての質的研究法 教育・学習編』東京図書
2. 鯨岡峻（2005）『エピソード記述入門—実践と質的研究のために』東京大学出版会
3. 鯨岡峻（2013）『なぜエピソード記述なのか—「接面」の心理学のために』東京大学出版会
4. 高橋規子・小森康永（2012）『終末期と言葉 ナラティブ／当事者』金剛出版

学生に対する評価

レポート課題（60%）、試験（40%）で評価をおこなう。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義IX (国際福祉論)	高橋 睦子	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

概要)

この講義では、社会福祉の問題群の多層性・複合性を理解するために、個別の社会と国際社会の動向との双方の視点から検討する。社会福祉の諸課題について、とくに社会的リスク、社会的排除、貧困、暴力、ジェンダーおよびエスニシティなどの視座から考察する。

一般目標)

グローバリゼーションと社会福祉の関係に焦点をあて、アジア諸国と欧米を中心に、比較研究についての理論的枠組みのバリエーションについて理解を深める。

到達目標 (SBOs)

到達目標)

グローバリゼーション、社会的排除、リスク社会といった国際福祉論にとって根源的な概念や理論的枠組みを理解し、現代世界における社会福祉学の意義を学修する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「比較福祉国家：理論・計量・各国事例」を熟読し、(1)福祉国家の比較研究の理論展開、および、(2)理論と各国事例との関係について考察してください。(参考文献も積極的に利用すること) (6月末)

第2回レポート課題

テキスト「ケアの倫理からはじめる正義論」を熟読し、社会福祉学研究にとっての「ケア倫理」の課題について論じてください。(参考文献も積極的に利用すること) (9月末)

第3回レポート課題

テキスト「平等と効率の福祉革命」を熟読し、国際比較の視点を含め、福祉に関する平等と効率の競合と調和について論じてください。(参考文献も積極的に利用すること) (11月末)

テキスト

1. 鎮目真人・近藤正基「比較福祉国家：理論・計量・各国事例」ミネルヴァ書房 2013
2. エヴァ・フェダー・キティ「ケアの倫理からはじめる正義論—支えあう平等」白澤社 2011
3. G. エスピン＝アンデルセン「平等と効率の福祉革命」岩波書店 2011

参考書・参考資料等

1. 渋谷博史ほか「グローバル化と福祉国家と地域」学文社 2010
2. 武川正吾「連帯と承認 - グローバル化と個人化のなかの福祉国家」東京大学出版会 2007
3. 稲葉 振一郎「不平等との闘い - ルソーからピケティまで」文春新書 2016

学生に対する評価

レポートに3回合格することを前提とし、科目修了試験の成績により評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義X（高齢者健康福祉論）	小川 芳徳	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

高齢者の増加とともに介護の問題が社会的な問題として指摘されています。そのため2000年に介護保険制度が施行され幾度となく改正を重ねています。福祉社会の実現のためには介護の予防という観点が重要となってきます。介護の予防には身体活動の維持・向上は欠かせません。高齢者が「体を動かす能力」を維持していくためには、日常的に身体活動ができる施設、設備、さらには運動を指導できる人材が必要となります。指導にあたってはからだを動かす仕組みやその効用を理解すること、さらには、それを福祉の施策に反映させることが大切です。よって、この科目では身体に着目し、身体活動の加齢による生理的な変化、その仕組み、その効用、そして指導にあたってのポイントを理解することを目的にします。

到達目標 (SBOs)

- ① 年齢(加齢)に伴う身体の生理的变化を理解する。
- ② 身体活動のしくみを理解し、説明できる。
- ③ 身体活動の身体への影響を理解し、説明できる。
- ④ 運動を指導する際に注意すべき事項を理解し、説明できる。
- ⑤ 高齢者に対して運動を提示し、その意味・意義を説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

出生から死に至るまでの身体の生理的变化について説明してください。(①②)

第2回レポート課題

高齢者の身体活動の意味・意義と身体活動の有効性について考察してください。(①②③)

第3回レポート課題

高齢者を対象にトレーニング(身体活動)プログラムを指導するときの注意点を、休養、栄養を含めて考察してください。(①②③④⑤)

テキスト

参考書・参考資料等

1. からだの発達と加齢の科学 (出版社:大修館書店)
2. 加齢と運動の生理学 (出版社:朝倉書店)
3. 高齢社会へのステップー健康福祉・労働の視点からー (出版社:杏林書院)
4. トレーニング生理学 (出版社:杏林書院)
5. 高齢者の生活機能増進法 (出版社:NAP)
6. 中高年の運動実践ハンドブック (出版社:昭和堂)
7. 高齢者のための生活関連体力強化法 (出版社:NAP)

学生に対する評価

3回のレポートを提出・合格し、科目修了試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義XI (介護福祉論)	清水 径子	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

介護は、高齢者や障がい児者などの利用者を全人的 (holistic) にとらえる福祉の観点から、具体的な生活障害の克服や軽減をめざした機能を有する活動であることから、必要な知識も多岐にわたる。介護福祉の専門性は、人間と生活の理解、観察力、介護計画の展開と評価力、相談・助言の能力、緊急及び終末期のケア、関連職種とのチームケア能力、スーパービジョンとアドミニストレーションがあるといわれている。本講義では、介護福祉実践を論理的かつ科学的な観点からとらえることを目的とする。

到達目標 (SBOs)

1. 介護福祉実践の在り方を倫理的観点から説明することができる。
2. 介護の本質について説明ができる。
3. 介護福祉実践の現状と課題が整理でき、地域共生社会における介護福祉実践を考察できる。
4. 介護過程から介護福祉の専門性を理解し、説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト①～②を読み、介護の本質や介護福祉実践の在り方を説明し、倫理的観点から介護福祉実践をまとめること。(1～2)

第2回レポート課題

介護福祉実践の現在の諸問題から介護福祉実践を考察すること。現在の諸問題は、介護人材の不足や外国人労働者の現状、孤独死など、テキスト①から選ぶこと。また、諸問題に関する先行研究(論文)を一つ以上読み、問題の所在から地域共生社会における介護福祉実践を探ること。(3)

第3回レポート課題

介護福祉実践では、アセスメント、情報の分析、介護計画立案、介護福祉実践、評価を経て、介護過程を一人の利用者へ科学的に展開する。このような介護過程の科学的な観点をまとめ、介護福祉実践の専門性についてまとめること。(4)

テキスト

- ①淑徳選書5 正義と福祉 競争と自由の限界 結城康博 淑徳大学長谷川仏教文化研究所(978-4-905491-10-1)
 ②ケアの本質 田村真(著), ミルトン・メイヤロフ(著) ゆみる出版(978-4946509117)

参考書・参考資料等

傍らにあること 老いと介護の倫理学 池上哲司 筑摩書房 (978-4-480-01597-6)
 介護福祉学 介護福祉学研究会監修 中央法規(4-8058-4396-9)

学生に対する評価

提出された3回のレポート内容、科目修了試験により総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義XII（行動療法論）	前田 直樹	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

近年、心理臨床の分野ではエビデンスベーストの行動療法、応用行動分析、認知行動療法が積極的に行われており、最先端の研究を理解するためにはこの領域における様々な論文を読み、その内容をまとめておく必要がある。本科目では最新の不登校研究を通して、行動療法的アプローチの内容を理解することを目標とする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 英文の論文が翻訳できる。
- 2) 不登校に関する英文の研究論文を読み、内容を自分なりにまとめることができる。
- 3) 不登校の行動論的アプローチについて説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキストの p32 “Intervention with the parents”から p36 “Establishing a smooth household routine”まで全文翻訳。

第2回レポート課題

テキスト p36 “Clarifying the date and process for school return”から p40-41 “Escorting the child to school”まで全文翻訳。

第3回レポート課題

テキスト p41 “Leaving the child at school”から P46 “Supporting parents”まで全文翻訳。

テキスト

Heyne, D., & Rollings, S. (2002). *School Refusal*. Oxford: Blackwell Scientific Publications.

参考書・参考資料等

Blagg, N. (1987). *School Phobia and Its treatment*. Croom Helm.
 Fremont, W. P. (2003). School refusal in children and adolescents. *American Family Physician*, 68, 1555–1561.
 Kearney, C.A. (2008). *Helping School Refusal Children and Their Parents*. Oxford University Press.
 Parsons, R. (2009). *Thinking and Acting Like A Behavioral School Counselor*. Corwin.

学生に対する評価

翻訳の内容で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学研究法特殊講義 I (質的研究)	加藤 謙介	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

質的研究法とは、事象の具体性に即した手法で、観察や面接によって得られたデータに基づく経験科学的なものであり、非計量的なアプローチをいう。具体的には、実験的研究状況を設定しないで、観察や面接を重視し記録を作成し、主に質的データである記録に基づいて分析をするものであり、記録以外の得られた資料も総合して分析する。こうしたアプローチの基礎的方法について学習する。

到達目標 (SBOs)

1. 質的研究における、コーディング、カテゴリ、面接法、観察法、事例研究法、ナラティブ法、Grounded Theory Approach などのデータ収集の方法について理解する。
2. 複雑な状況やその背景にあるデータの意味をとらえることができるようになる。
3. 質的研究に適している課題はどのような課題かを認識し、質的研究のデザインが考えられるようになる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

質的研究心理学研究 No. 16 (2017 年刊) の中から論文 2 本を選び、そこでの研究方法の特徴と問題について考察しなさい。

第2回レポート課題

質的研究心理学研究 No. 17 (2018 年刊) の中から論文 2 本を選び、そこでの研究方法の特徴と問題について考察しなさい。

第3回レポート課題

質的研究心理学研究 No. 18 (2019 年刊) の中から論文 2 本を選び、そこでの研究方法の特徴と問題について考察しなさい。

テキスト

1. 質的心理学研究 No. 16 (2017) 新曜社
2. 質的心理学研究 No. 17 (2018) 新曜社
3. 質的心理学研究 No. 19 (2019) 新曜社

参考書・参考資料等

1. 無藤 隆 (他) (編) (2004). 質的心理学：創造的に活用するコツ 新曜社
2. やまだようこ (他) (編) (2013). 質的心理学ハンドブック 新曜社
3. 田垣正晋 (2008). これからはじめる医療・福祉の質的研究入門 中央法規

学生に対する評価

レポートに3回合格し、科目修了試験において評価。データ収集法が理解できているか、データの意味を理解しているか、質的研究のデザインを理解しているか、について評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学研究法特殊講義Ⅱ（量的研究）	正野 知基	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（GIO）

よりよい支援を考察し、実践するためには、実態把握、潜在ニーズ探索、支援の効果測定・評価等を実証的、科学的に実施できる能力が必要とされる。本科目では、考察・実践の裏づけとなる量的調査・研究に関するデータの基本的な統計分析法（量的データ解析の基礎、回帰分析、分散分析、因子分析等）について学ぶ。統計ソフトとして SPSS を用いるので、所有していない受講生は、各自で学生向けライセンス（IBM SPSS Statistics Standard Grad Pack）を年間契約すること。

到達目標（SBOs）

1. 量的データ解析で用いる基礎的な多変量解析法の基本的な考え方を理解し、回帰分析を実行できる。
2. 量的データ解析で用いる基礎的な多変量解析法の基本的な考え方を理解し、分散分析を実行できる。
3. 量的データ解析で用いる基礎的な多変量解析法の基本的な考え方を理解し、因子分析等が実行できる。
4. 多変量解析法によって導き出された結果を解釈し、考察することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

*第1回から第3回のレポート課題および作成に必要なデータ、注意事項についてはオリエンテーション時に説明し、科目選択を確認後にその都度送付する。

第2回レポート課題

*第1回から第3回のレポート課題および作成に必要なデータ、注意事項についてはオリエンテーション時に説明し、科目選択を確認後にその都度送付する。

第3回レポート課題

*第1回から第3回のレポート課題および作成に必要なデータ、注意事項についてはオリエンテーション時に説明し、科目選択を確認後にその都度送付する。

テキスト

社会調査の応用：金井雅之他（編），弘文堂

参考書・参考資料等

社会調査の基礎：篠原清夫他（編），弘文堂

社会調査の基礎〔第3版〕—社会調査 社会福祉調査，弘文堂

あなたもできるデータの処理と解析：岩淵千明（編著），福村出版

*SPSSの分析手法に関する書籍は多数出版されているので、各自でわかりやすいものを入手して参照してください。

学生に対する評価

レポート課題（30%）、最終試験（70%）で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	小川 芳徳	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により解釈することを目指します。さらに、それらの結果から得られた成績を具体的な実践へと展開することを目指します。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程を正しく記載します。

到達目標 (SBOs)

- ① 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ② 研究テーマを設定できる。
- ③ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ④ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑤ 結果を的確に提示・表現することができる。
- ⑥ 結果について論理的に考察することができる。
- ⑦ ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

(①②③)

研究テーマの設定をします。そのため、研究テーマについての先行研究を探し、その内容を整理します。何が確かか、何が新知見になるかを明確に理解し、本研究で取り上げたテーマのオリジナリティーを確認します。テーマにとって適切な方法を決定します。

テキスト

参考書・参考資料等

1. 福祉文化論 (出版社：有斐閣ブックス)
2. 社会福祉研究法 (出版社：有斐閣アルマ)

参考図書については各自の研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	川崎 順子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

ソーシャルワークの理論と実践にかかわるテーマ、特に①地域を基盤としたソーシャルワーク、②多職種連携やチームアプローチ、③権利擁護・成年後見制度等を主たる研究テーマとする。

社会福祉をはじめ関連領域の動向を把握し、先行研究・文献研究の探索を通して、課題認識を明確にし、研究テーマの妥当性を検討する。研究テーマに応じた研究方法を選定し、研究計画書を作成したうえで、研究を進める。この一連の過程を通して、博士論文作成に必要な知識・技術を修得していく。

到達目標 (SBOs)

- ① 研究テーマを検討し、博士論文の構想がイメージできる。
- ② 具体的な研究スケジュールを作成し、研究計画書に基づいて研究を進めることができる。
- ③ 研究テーマに則した研究方法を選択し、実施に向けて準備することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・ 関心領域に関連する先行研究を探索し、課題整理を行い、自身の研究テーマの設定意義を明確にする。①
- ・ 研究テーマに基づいた内容を吟味し、独創性を見出し、研究の論点を明確にしていく。①
- ・ 研究テーマに沿った研究方法を選定し、その手法についての有効性を他の研究データを参考に判断する。②
- ・ 研究目的、研究方法を定め、研究計画書を作成する。②
- ・ 研究内容によっては、調査実施に向けた準備を行い、倫理委員会への申請を行う。③
- ・ 進捗状況に応じて、着実に研究を進める。③

テキスト

特に指定しない。主体的に文献検索を行うことを前提とし、研究に関連する論文や文献などを紹介する。

参考書・参考資料等

研究テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究への熱意、質疑応答、課題レポートの提出状況、発表などを総合的に判断し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	兒玉 修	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

現代教育の課題について、教育現象を福祉の観点から考察していく博士論文の基本的な枠組みを構想する。まず、研究テーマに関する先行研究を整理し、仮説設定のための予備的作業を行う。その際、教育現象を福祉の観点から捉える（分析する）意義や重要性を明確にする。それらを通して、教育福祉研究の課題と方法についての学問的知見を深め、問題意識を鮮明にする。なお、対象とする教育現象は学校教育に限定されない。

到達目標 (SBOs)

- 1) 教育現象を福祉の観点から考察する意義や重要性について理解している。
- 2) 先行研究の整理に基づいて、旧来とは異なる新たな視点から仮説を設定できる。
- 3) 科学的な探究（研究）の方法について理解している。

授業計画（論文作成の計画）

1 年次

- 1) 自己の問題関心に基づいて、研究の基本的な枠組みを構想する。
- 2) 研究テーマにかかわる先行研究（資料・文献）の収集・分析し、レポートにまとめる。
- 3) 2 年次以降の研究の見通しを立てる。

テキスト

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、スクリーニング、教員への応答状況、提出物等に基づいて評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	正野 知基	2	S	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

QOL (生活の質) を向上させるための手段としてのレクリエーション, 身体活動・健康運動, スポーツの福祉分野における有用性について考察していくことを主たる研究領域とする。

博士論文作成を目指して, まず, 各自の持つ問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を理解する。次に, 研究目的を具体的・現実的なものとし, 博士論文としての意義とオリジナリティの確認 (先行研究のレビュー) を行う。そして, 研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画を立案する。研究計画には主論文 (博士論文) の理論構築に必要な関連 (参考) 論文の研究計画も含む。これら一連の過程を通して, 博士論文作成のために必要な知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・各自の持つ問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を理解し, 実行できる。
- ・研究目的を具体的・現実的なものとし, 博士論文としての意義とオリジナリティの確認ができる。
- ・研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画が立案できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

- ・各自の持つ問題 (研究課題) の具体化へ向けた作業を行う。
- ・具体化した研究課題の解決へ向けての研究手順・方法を学び, 理解する。
- ・研究目的を具体的・現実的なものとし, 博士論文としての意義とオリジナリティを確認するために先行研究のレビューを行い, レビュー論文 (総説) を書く。
- ・研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画を立案する。研究計画には主論文 (博士論文) の理論構築に必要な関連 (参考) 論文の研究計画も含む。

テキスト

特に指定はしないが, 個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが, 院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究課題の具体化ができているか, 解決へ向けての研究手順・方法を理解して実行できているか, 研究目的を具体的・現実的なものにできているか, 博士論文としての意義とオリジナリティの確認ができているか, 研究の問題点及び限界を確認して研究計画が立案できているかを, スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	高橋 睦子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

概要)

社会福祉学の諸問題について、主に、福祉社会学・福祉政策論のアプローチからの研究課題と目的を設定し、博士論文の基本的な枠組みを構築する。

一般目標)

研究テーマの絞り込み、研究テーマの選定、課題の設定、研究目的の明確化、研究法の選定、先行研究の文献検索とレビューといった研究の基本作業を通じて、研究構想を明確にし、研究計画の作成を一般目標とする。

到達目標 (SBOs)

自らの問題意識から研究テーマを設定し、研究課題・目的を明確に把握し文章表現できるようになることが、到達目標である。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

受講生各自の研究における「問題の所在」をまず熟考し研究課題を設定する。研究を進めるために最も適切な研究手法を明らかにしつつ、関連の先行研究の検索・批判的検討を行い、レポートとしてまとめる。こうした作業を通じて、博士論文の研究計画の推敲を重ね、学術論文としての論考の展開の作法を具体的に習得する。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて提案する。また、受講生は自ら積極的に文献検索・収集に取り組むことが期待される。研究テーマに関連する先行研究は、国会図書館等を利用して先行の博士論文を丹念に読むことが研究作業の出発点として不可欠である。

参考書・参考資料等

1. ウヴェ・フリック『新版 質的研究入門 <人間の科学>のための方法論』春秋社, 2011年
2. 平岡公一ほか(監修)『研究道: 学的探求への道案内』東信堂, 2013年

学生に対する評価

スクーリングでの受講状況(質疑応答への積極的な参加状況) 40%, 提出レポート 60%をもとに評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	前田 直樹	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

科学的な心理学である行動理論、行動療法、行動分析に関する研究を行い、博士論文作成に向け、研究テーマに関するレビュー研究を行う。レビュー研究では英文論文が基本になるため、英語は必須である。

到達目標 (SBOs)

1. 行動理論、行動分析、行動療法に関する研究を理解することができる。
2. 研究テーマに関してレビュー論文を作成することができる。
3. 自分の研究に関する内容を他の研究者に適切に説明できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

1. 研究計画に従ってレビュー研究を行い、レビュー論文を作成する。
2. 研究計画に従い必要なデータの収集を行う。
3. レビュー論文を学術誌に投稿する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

・必要に応じて随時紹介する。基本となる主なものは以下のとおり。

Blagg, N. (1987). *School Phobia and Its Treatment*. Croom Helm.

Haslam, N. (2016). Concept creep: Psychology's expanding concepts of harm and pathology. *Psychological Inquiry*, 27, 1–17.

Heyne, D. & Rollings, S., (2002). *School Refusal*. BPS Blackwell.

ジェームズメイザー (2009). *メイザーの学習と行動*, 二弊社.

森田正馬 (2014). *生の欲望*. 白揚社

Parsons, R. (2009). *Thinking and Acting Like A Behavioral School Counselor*. Corwin.

学生に対する評価

論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	渡邊 一平	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

学際的領域である社会福祉学において、各自が興味関心を持った内容を「研究」という技法に基づき、思考・表現ができるように学習を行う。

研究では普遍妥当性が求められるが、そのための思考方法、研究手法、表現方法について、学部あるいは修士課程で培った各自の専門領域をさらなる深みへと導くための掘り下げを行う。同時に多角的な視点・手法からのアプローチを修得する。

さらに具体的な研究手法として、要素分析法、文献研究、調査研究等があるが、全て反証に対して開かれていることを認識した上で思索を深める。

到達目標 (SBOs)

1. 各自のテーマを「科学的方法」というフィールド内で作業できるよう、具体的なテーマに変換することができる。
2. 関連領域の論文、書籍、資料を検索・収集し、記載内容を要約することができる。
3. 収集した論文等を基に、自身のテーマの起承転結（ストーリー）を研究デザインとして構築することができる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

1. 関連領域の論文等を要約し、現在までに何が解明されていて、何が疑問（課題）として残っているのかについて理解する。
2. 自身のテーマについて何を明らかにしようとしているのか、具体的かつ的確に理解する。
3. その疑問（課題）の一端を解決するためのアプローチ手法について考察する。
4. 関連研究成果を学術雑誌へ投稿する（原著論文）。

テキスト

特に指定はしない。個々の研究テーマに必要と思われる資料等を紹介する。

参考書・参考資料等

テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリング時の姿勢および提出物、担当教員とのやり取り等を総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	小川 芳徳	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により解釈することを目指します。さらに、それらの成績を実践へと展開することを目標にいたします。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程を正しく記載します。

到達目標 (SBOs)

- ⑧ 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ⑨ 研究テーマを設定できる。
- ⑩ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ⑪ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑫ 結果を的確に表現することができる。
- ⑬ 結果について論理的に考察することができる。
- ⑭ ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

(③④)

テーマに対し適切かつ妥当な方法を決定し、その方法を実行に移していきます。

テキスト

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	川崎 順子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰで取り組んだ研究を踏まえ、研究計画に基づき研究を進める。研究の進捗状況に応じて、研究全体の課題を再検討し、軌道修正を行い、博士論文の構成を明確にしていく。博士論文執筆有資格者認定条件を満たせるように、これまでの研究成果を論文にまとめ、学会発表・論文投稿を行う。

到達目標 (SBOs)

1. 研究の進捗状況を確認し、計画的に研究を進めることができる。
2. 研究方法に基づいて実施した内容を適切に分析・整理することができる。
3. これまでの研究成果を部分的に抽出したうえで、論文を作成し、投稿することができる。
4. 研究の独自性を明確にし、論理力、考察力を高めることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- ・研究計画にそった進捗状況を確認し、必要に応じて研究スケジュールの修正を行う。①
- ・実施した研究方法の結果を分析し、得られたデータや知見を整理し、考察する。②
- ・これまでの研究成果を論文にまとめる作業を通して、博士論文の構成を具体化していく。③
- ・一定の研究成果を論文にまとめ、学会発表・学術誌への投稿を試みる。③
- ・博士論文の独自性について議論しながら、論点を整理し論文を作成していく。④

テキスト

特に指定しない。研究の進捗状況に応じて必要な文献などを紹介する。

参考書・参考資料等

研究テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、論文投稿状況、提出物、質疑応答、発表などを総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	兒玉 修	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰでの学習や研究を踏まえ、次のような手順で、教育現象を福祉の観点から考察していく研究テーマの追求を進める。

- 1) 選択したテーマに関する先行研究を整理し、現在までに明らかにされている知見をまとめる。
- 2) 選択した研究テーマの学術的及び社会的意義を整理するとともに、当該テーマの研究可能性（課題の解決可能性）を確認する。
- 3) 研究テーマ（目的）に応じた研究の方法を吟味し、仮説を検証する手順を明確にする。

到達目標 (SBOs)

- 2) 選択したテーマについて、それが関連する学問領域のなかでどのような位置にあるかを理解している。
- 2) 選択したテーマの独自性・独創性がどこにあるかを、他の学術的な研究成果との対比や社会的な意義から説明できる。
- 3) 研究テーマ（目的）に応じた研究の方法を理論的に明確化できる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

- 4) 先行研究の蓄積・整理に基づいて、研究テーマとともに仮説を明確にする。
- 5) 仮説を検証するための方法、及び、説得力ある論証を組み立てるための手順を明確にする。
- 6) 研究テーマにかかわる資料・文献の収集・分析を進める。
- 7) 論文の基本的枠組みをレポートにまとめる。

テキスト

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、スクーリング、教員への応答状況、提出物等に基づいて評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	正野 知基	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰで立案した研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施する。その成果の学会発表、論文投稿を積極的に行う。なお、研究計画に問題等が発生した場合は適宜見直し、修正を行う。これら一連の過程を通して、博士論文の基礎的な骨格となる関連原著論文作成の知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・立案した研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施できるようになる。
- ・実施した関連研究の成果を学会発表できるようになる。
- ・実施した関連研究の成果を学術雑誌へ原著論文として投稿できるようになる。
- ・投稿した原著論文の査読結果に対する適切な対応ができるようになる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- ・立案した研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施する。
- ・研究成果の学会発表、原著論文を作成して学術雑誌への投稿を積極的に行う。
- ・投稿した原著論文の査読結果に対して適切な対応を行う。

テキスト

特に指定はしないが、個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが、院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究の進捗状況 (実施した関連研究の学会発表、学術雑誌へ原著論文としての投稿を含む)、スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	高橋 睦子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

概要)

受講生の研究計画に基づき、研究課題および研究方法に関連する先行研究文献について批判的検討を行う。

一般目標)

研究計画を具体化する際の、調査研究の遂行に必要な技能・スキルおよび研究倫理を学修する。

到達目標 (SBOs)

到達目標)

研究テーマに関する先行研究について自分で学術論文の検索を行なって文献を体系的に収集し、内容を精査することで、先行研究の到達点を把握し、自らの研究の位置付けと方向性を明確にすることができるようになる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

各自の研究を進めるために最も適切な研究手法について理解を深め、研究テーマに密接に関連する先行研究を検索・収集し批判的検討を行い、レポートとしてまとめる。こうした作業を通じて、博士論文の研究計画を完成させ、学術論文としての論考の展開と考察の記述の仕方を具体的に習得する。

テキスト

テキストは、受講者の研究テーマに合わせて、選定する。

参考書・参考資料等

1. ウヴェ・フリック『新版 質的研究入門 <人間の科学>のための方法論』春秋社, 2011年.
2. 平岡公一ほか (監修)『研究道：学的探求への道案内』東信堂, 2013年

学生に対する評価

スクーリングでの受講状況 (質疑応答への積極的な参加状況) 40%, 提出レポート 60%をもとに評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	前田 直樹	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

立案した研究計画に従って研究を行い、研究内容を論文にまとめていく。まとめた論文を学会誌に投稿し、内容を外部の専門家に審査してもらう。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究計画に従って研究を進めることができる。
- 2) APA のフォーマットを使いこなすことができる。
- 3) 投稿論文の査読に対して、適切な対応ができる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- 1) 研究計画に従って研究を進めていく。
- 2) 完成した論文を学術誌に投稿する。
- 3) 査読結果の内容を踏まえて論文の質を高め、可能であれば再投稿する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

自分の研究テーマに関連した文献を使用する。

学生に対する評価

論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	渡邊 一平	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

学際的領域である社会福祉学において、各自が興味関心を持った内容を「研究」という技法に基づき、思考・表現ができるように学習を行う。

研究では普遍妥当性が求められるが、そのための思考方法、研究手法、表現方法について、学部あるいは修士課程で培った各自の専門領域をさらなる深みへと導くための掘り下げを行う。同時に多角的な視点・手法からのアプローチを修得する。

さらに具体的な研究手法として、要素分析法、文献研究、調査研究等があるが、全て反証に対して開かれていることを認識した上で思索を深める（特殊研究Ⅰと同様の内容である）。

到達目標 (SBOs)

1. 各自のテーマを「科学的方法」というフィールド内で作業できるよう、具体的なテーマに変換することができる。
2. 関連領域の論文、書籍、資料を検索・収集し、記載内容を要約することができる。
3. 以上の内容を基盤として、関連研究を実施できる。
4. 関連研究の結果等から自身のテーマの起承転結（ストーリー）を研究でデザインとして再構築することができる。

授業計画（論文作成の計画）

2年次

特殊研究Ⅰに引き続き、

1. 関連領域の論文等を要約し、現在までに何が解明されていて、何が疑問（課題）として残っているのかについて理解する。
2. 立案した研究計画に基づき、関連研究を実施する。
3. 関連研究成果を学術雑誌へ投稿する（原著論文）。

テキスト

特に指定はしない。個々の研究テーマに必要なと思われる資料等を紹介する。

参考書・参考資料等

テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリング時の姿勢および提出物、担当教員とのやり取り等を総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	小川 芳徳	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により解釈することを目指します。さらに、それらの成績を実践へと展開することを目標にいたします。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程を正しく記載します。

到達目標 (SBOs)

- ⑮ 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ⑯ 研究テーマを設定できる。
- ⑰ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ⑱ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑲ 結果を的確に表現することができる。
- ⑳ 結果について論理的に考察することができる。
- 21 ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

(①②③④⑤⑥⑦)

- 1 得られた研究結果を分析し、考察する。
- 2 これらの成績を論理的に記述する。
- 3 研究成果を公表する。

テキスト

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	川崎 順子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰ、Ⅱで取り組んできた研究成果を踏まえ、研究計画に基づき、予備審査から本審査に向けて順調に研究を進める。研究の独自性や新規性を議論し、博士論文全体の構成を再検討し、完成を目指す。本審査の受験要件を満たすための準備を進める。

到達目標 (SBOs)

1. 研究の進捗状況を確認したうえで、課題を整理し、博士論文を完成することができる。
2. 博士論文の全体構成の連関を理解し、論理性ある論文として精度をあげることができる。
3. 独自性ある論文として研究成果をまとめ、社会に発信することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- ・論文の完成に向けて、研究スケジュールの確認を行い、前期8月予備審査、後期2月本審査の準備を進める。①
- ・予備審査で明らかになった課題を整理し、論文構成・内容を吟味し、考察の的確性や論理性を検証する。②
- ・博士論文を完成させ、プレゼンテーション力を発揮する。③
- ・研究成果を学会・学術誌へ投稿する。③

テキスト

特に指定しない。研究の進捗状況に応じて必要な文献を紹介する。

参考書・参考資料等

研究テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、投稿論文への取り組み状況、提出物、発表、博士論文の内容などを総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	兒玉 修	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰ、Ⅱでの学習や研究を踏まえ、研究の意義、研究の方法、研究の成果を確認し、博士論文としてまとめる。具体的には、次のような手順をとる。

- 1) 研究の意義（独自性）、方法、成果の相互の整合性を検討する。
- 2) 研究によって得られた知見を整理し、研究の到達点、残された課題を明確にする。
- 3) 研究成果を論文としてまとめると同時に、学会・研究会等の機関誌への投稿を試みる

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究の目的・意義、方法、成果のそれぞれの論理的整合性を確認・修正できるとともに、研究の独自性について説明できる。
- 2) 設定された仮説がどれほど検証されたかを吟味することを通して、残された課題を明確にできる。
- 3) 研究成果を説得力のある論文としてまとめると同時に、その成果を社会に発信することができる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

- 1) 予備審査及び本審査を中心とした研究スケジュールのなかで、論文の作成を進める。
- 2) 説得力のあるスタイル（論証方法）で論文を作成する。
- 3) 予備審査で指摘された問題について考察を進め、その問題を克服する。
- 4) 博士論文として完成させ、その成果を学会・研究会等の機関誌へ投稿する。

テキスト

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、スクーリング、教員への応答状況、予備審査の結果、提出物、外部への投稿状況等に基づいて評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	正野 知基	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅱに引き続いて、主論文作成に向けた関連研究を実施し、その成果の学会発表、原著論文投稿を積極的に行う。同時に、立案した研究計画に沿って、関連研究の成果を基に主論文に関する研究を実施し、博士論文としてまとめる。これら一連の過程を通して、作成した関連原著論文を基に、博士論文としてまとめるための知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・関連研究の成果を基に、主論文に関する研究を実施できるようになる。
- ・関連原著論文を基に、博士論文としてまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- ・研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施する。
- ・研究成果の学会発表、原著論文を作成して学術雑誌への投稿を積極的に行う。
- ・投稿した原著論文の査読結果に対して適切な対応を行う。
- ・研究計画に沿って、関連研究の成果を基に主論文に関する研究を実施し、博士論文としてまとめる。

テキスト

特に指定はしないが、個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが、院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究の進捗状況 (実施した関連研究の学会発表、学術雑誌へ原著論文としての投稿、博士論文を含む)、スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	高橋 睦子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

概要) 各自の博士論文の取り組み状況を確認し、論文の構成や調査研究方法について助言し、学位論文の完成にむけて論文執筆をサポートする。

一般目標) 査読付き学術誌への投稿によって、博士論文の進捗ペースを確保し、学位論文の完成を目指す。

到達目標 (SBOs)

到達目標) 博士論文の中核となる調査研究について、査読付き学術誌の原著論文として採択されることを目指し、博士論文を当初の計画通りに完成させる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

各自の研究が学位論文として完成するよう、レポート作成、レポートへの添削指導を重ねつつ、スクーリングでの議論を通じて、論文執筆を具体的に習得する。

テキスト

テキストは、受講者の研究テーマに合わせて選定する。

参考書・参考資料等

参考書は、受講者の研究テーマに合わせて、研究論文・図書等を選定する。

学生に対する評価

スクーリングでの受講状況 (質疑応答への積極的な参加状況) および提出レポートをもとに評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	前田 直樹	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

これまでに学術誌に投稿した論文をまとめ、博士論文を完成させる。

到達目標 (SBOs)

- 1) 外部の専門家の指摘を理解し、論文をまとめることができる。
- 2) 英文で論文が執筆できる。
- 3) 研究の成果を国内外で発表することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- 1) 研究論文の一部を英文で学術誌に投稿する。
- 2) 査読結果の内容を踏まえて論文の質を高め、可能であれば再投稿する。
- 3) 投稿した論文をまとめて博士論文を完成させる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

自分の研究テーマに関連した文献を使用する。

学生に対する評価

博士論文の内容で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	渡邊 一平	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

学際的領域である社会福祉学において、各自が興味関心を持った内容を「研究」という技法に基づき、思考・表現ができるように学習を行う。

研究では普遍妥当性が求められるが、そのための思考方法、研究手法、表現方法について、学部あるいは修士課程で培った各自の専門領域をさらなる深みへと導くための掘り下げを行う。同時に多角的な視点・手法からのアプローチを修得する。

さらに具体的な研究手法として、要素分析法、文献研究、調査研究等があるが、全て反証に対して開かれていることを認識した上で思索を深める（特殊研究Ⅰと同様の内容である）。

到達目標 (SBOs)

1. 関連研究を実施できる。
2. 関連研究を実施する中で浮上する疑問等について思索を深めることができる。
3. 関連研究の論理的整合性を踏まえて自身のテーマの起承転結（ストーリー）を研究デザインとして構築し、博士論文を作成することができる。

授業計画（論文作成の計画）

3年次

特殊研究Ⅰ、Ⅱに引き続き、

1. 立案した研究計画に基づき、関連研究を実施する。
2. 関連研究成果の学会発表および学術雑誌への投稿を行う（原著論文）。
3. 関連論文を博士論文として構築する。

テキスト

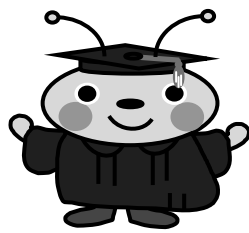
特に指定はしない。個々の研究テーマに必要と思われる資料等を紹介する。

参考書・参考資料等

テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリング時の姿勢および提出物、担当教員とのやり取り等を総合的に判断し、評価する。



Together